

第4回名立区地域協議会 次第

日時：令和4年6月23日（木） 午後6時30分から
場所：名立区総合事務所 2階 第2会議室

1 開 会

2 報告事項

- (1) 名立地区公民館上名立分館の修繕工事について
- (2) 中山間地域農業の維持・振興に向けたワークショップの開催状況と今後の展開について …資料 No. 1

3 協議事項

- (1) 意見交換会の進め方について …資料 No. 2

4 その他事項

5 閉 会

中山間地域農業の維持・振興に向けた
地域自治区別ワークショップ(みらい農業づくり会議)
開催状況及び今後の展開

令和4年6月23日(木)

上越市中山間地域元気な農業づくり推進協議会
木田推進チーム

令和3年度における開催状況及び今後の展開について

中山間地域農業の維持・振興 「ありたい姿」(将来の方向性)

地域農業者が
主体的に議論し、
共有する

課題解決に向けたテーマ別方策

担い手・後継者の確保



農業生産維持に向けた
作物選定・所得確保



農業機械・スマート農機の
共有化・共同利用



土地利用の明確化・
農地条件の改善



活動のエンジンとなる組織

市の役割

推進チーム(市・県・JA・農業委員会)として

「ありたい姿」の実現に向けて定められた方策に対する各種支援

令和3年度

幅広い参加者が率直な意見・考えを出し合い、
中山間地域農業のあるべき姿、理想的な姿を共有し、
4つのテーマごとに、実現に必要な取組を見出す

令和4年度

- 見出された必要な取組の具体化を検討・共有
「いつ」 「誰が」 「どうやって」
- 取組を下支えする「活動のエンジンとなる組織」の検討

令和5年度以降

共有された取組の実践

中山間地域等直接支払交付金 集落戦略の作成などの各種施策へも反映

- ・ 中山間地域等直接支払制度に取り組む地区がある

7の地域自治区で各2回開催

～理想的な中山間地域農業のあるべき姿を広域的観点で探る

- ・ 直接支払集落協定や集落の役員だけでなく、

若手や女性など幅広い世代の農業者が参加

～発言しやすい環境づくりのため、性別・年代を偏らせたグループ編成

- ・ 話し合いを促すファシリテーターとして

市、県、農業委員会、農協で構成する「推進チーム」を編成

～各々が担当する立場で、地域の意見を吸い上げる心構えで臨む

延べ14回・444名が議論に参加

谷浜・桑取区
12月14日(火)・3月29日(火)
延べ60名参加

吉川区
11月19日(金)・3月23日(水)
延べ63名参加

大島区
11月30日(火)・3月24日(木)
延べ69名参加

名立区
8月20日(金)・12月21日(火)
延べ69名参加

安塚区
11月25日(木)・3月25日(金)
延べ65名参加

板倉区
11月26日(金)・3月22日(火)
延べ56名参加

牧区
11月29日(月)・3月23日(水)
延べ62名参加

※浦川原区:明治大学主導のフューチャーデザイン・ワークショップ
※中郷区・清里区:新潟県主導のビレッジプラン
※柿崎区:第5期対策開始時に協定広域化議論実施済

第1回開催(令和3年12月まで)

第2回開催(令和4年3月まで)

人・農地・地域の
「強み」「弱み」
の洗い出し

「強み」を伸ばし、
「弱み」を克服する
“方策”の検討

第1回で出た意見を踏まえて
取組方向性や
キャッチフレーズ(CP)
の決定

取組方向性やCPを踏まえて
今取り組めるもの、
将来取り組むべきもの
の検討

ワークショップ参加者の約束ごと

気軽に、楽しく、中身濃く

- ・自分ばかり話しません
- ・相手の意見を否定しません
- ・楽しい雰囲気を大切にします
- ・参加者は対等です
- ・皆が気持ちよく話せるようにします

第1回 地域の「強み」「弱み」と「方策」の洗い出し

第2回 方向性の決定と必要な取組の検討



意見の数から
優先順位付け

集計結果から見えた最優先で取り組むべき項目

- A 「人口減・少子高齢」を一定程度受容しつつ、「人間性・地域性」を活かし、「人・担い手」の確保につなげていく
- B 「特徴・自慢・素材」を活かして、「活力・付加価値」を付けていく

出された意見をつないで、テーマ別に「方向性」を見出し、2回目で検討・決定

将来に向けた方向性

担い手・後継者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> • 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 • 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 • 将来的には、移住・定住者を増やします。
農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> • 名立区「らしさ」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 • SNSやネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	<ul style="list-style-type: none"> • 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 • 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。
土地利用の明確化・農地条件の改善	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 • その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。

参加者の率直な考えを付箋に書き出し、
関連するカテゴリーに分類するとともに、さらにグルーピング

名立区では、

付箋枚数251枚

に及ぶ強み・弱み・方策を洗い出し

活動のエンジンとなる組織の育成強化(上記を下支え)

第2回 方向性の決定と必要な取組の検討

集計結果から見えた最優先で取り組むべき項目

- A 「人口減・少子高齢」を一定程度受容しつつ、「人間性・地域性」を活かし、「人・担い手」の確保につなげていく
- B 「特徴・自慢・素材」を活かして、「活力・付加価値」を付けていく

出された意見をつないで、テーマ別に「方向性」を見出し、2回目で検討・決定

将来に向けた方向性

担い手・後継者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 ・ 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 ・ 将来的には、移住・定住者を増やします。
農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名立区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 ・ SNSやネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 ・ 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。
土地利用の明確化・農地条件の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 ・ その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。

活動のエンジンとなる組織の育成強化(上記を下支え)

①キャッチフレーズの決定

名立区らしさである

豊富な資源を活かし、

地域の連携や発信により

名立を日本中に売り込みます

②将来に向けた方向性と

キャッチフレーズを踏まえた

必要な取組の検討

「今取り組めるもの」

「将来取り組むべきもの」の検討

令和3年度における地域自治區別ワークショップの開催状況 ～キャッチフレーズ・将来の方向性～



地域自治区	キャッチフレーズ	将来の方向性			
		担い手・後継者の確保	作物選定・所得確保	機械共同化・スマート農機導入	土地利用・農地条件
谷浜・桑取区	谷浜・桑取区らしきである海から山までの地域資源を活かし、地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします	<ul style="list-style-type: none"> 谷浜・桑取区の「らしき」「ならでは」であるNPOや生産組合等の既存組織の活力、歴史や伝統の継承、人と人とのつながりなどを活かし、「見る」から「体験」までのきっかけづくりを大切に農業者と地域の担い手確保、コロナ禍における第2のふるさとづくりに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な山・海のめぐみや貴重な地域資源を活かした食のブランド化に向けた取組を推進します。 谷浜・桑取区の今(ひと・食・伝統・くらし など)を発信し、さらなるファンづくりに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な水資源や水源涵養活動を活かし、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。
安塚区	安塚区らしきである豊かな自然と雪を活かし、ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。 将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> スキー場と温泉の交流人口を活かした情報発信を行い、豊かな環境のもとで作られた農産物売り込みます。 雪室を活用した農産物の高付加価値化を図るとともに、様々な販売ルートを通じて、安塚区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 雪室を利用した特産品を開発します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
大島区	大島区らしきである人や物・自然の豊かさを活かし、楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。 将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS等を活用して、豊かな自然環境やホテルなどの地域の宝をPRし、農業体験イベントを通じた交流を促進します。(結果として、農産物の販売促進や担い手・後継者の確保にもつながる) 棚田米等の高付加価値化を図り、様々な販売ルートにより大島区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
牧区	牧区らしきである自然・棚田・人情を活かし、SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を活用した移住の手法を検討します。 ボランティアの募集・受入体制を整備します。 女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には農業で集落内外の人材を雇用します。 	<ul style="list-style-type: none"> 牧区の自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。 様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の魅力や歴史、商品をPRします。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に、基盤整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。
吉川区	吉川区らしきである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、移住の促進と交流人口の拡大することにより、担い手農家の確保・育成を図ります	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、広域的な集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 吉川区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「吉川ブランド」を確立させます。 SNSやネット販売などを通じて吉川ブランドを発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に行った「集落戦略」を見直し、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地を明確化します。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。
板倉区	板倉区らしきである米とソバの美味しさを活かし、インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の受け入れを促進します。 将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します。 ボランティアの募集・受入体制を整備します。 将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ソバの生産・販売を強化します。 板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します。 雪や観光地を活用した販売方法を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 平場の農業者と連携し、スマート農業の導入や中山間地域・平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地・活用可能な農地を線引きします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。
名立区	名立区らしきである豊富な資源を活かし、地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 名立区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 SNSやネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体的な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。

谷浜・桑取区

谷浜・桑取区らしきである海から山までの地域資源を活かし、
地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします

安塚区

安塚区らしきである豊かな自然と雪を活かし、
ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします

大島区

大島区らしきである人や物・自然の豊かさを活かし、
楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします

牧区

牧区らしきである自然・棚田・人情を活かし、
SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします

吉川区

吉川区らしさである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、
移住の促進と交流人口の拡大することにより、
担い手農家の確保・育成を図ります

板倉区

板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、
インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます

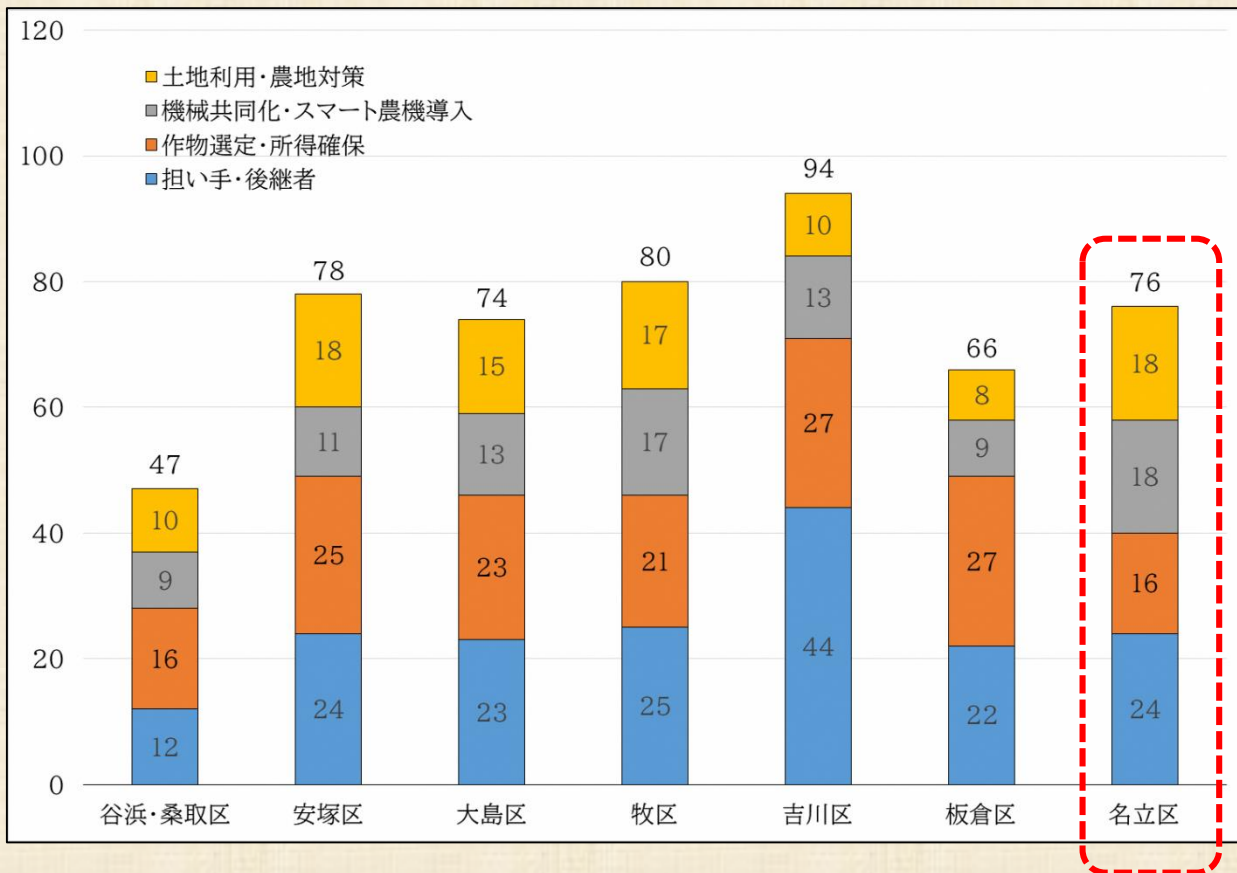
名立区

名立区らしさである豊富な資源を活かし、
地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます

令和3年度における地域自治区別ワークショップの開催状況 ～見出された取組の例～

課題解決に向けたテーマ	見出された取組の例	
	今取り組めるもの	将来取り組むべきもの
担い手・ 後継者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 集落営農を進める、農家同士の団結、農作業共同化 非農家、子供達の農業体験 SNSで稲刈り風景などを発信 農道、用水当維持作業の非農家の協力 新規就農者確保の先進的取組を見習う 婚活パーティ 	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の確保(住居含む) 短期の移住農業体験 都会の人との交流 法人化を進め、先進機器を導入 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">集落営農化や体験機会の創出に関することが多い</p>
作物選定・ 所得確保	<ul style="list-style-type: none"> インターネットで特産品などの情報発信 ホームページ作り そば、大豆、山菜等の生産拡大 山、海の産品を活かし商品化 道の駅で農作物販売 	<ul style="list-style-type: none"> 梅の新植 そば、山菜の生産拡大 名立ブランド(名立娘、桜米)を作り、発信する 歴史と農産物の融合 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">SNS発信や産品の生産拡大や販売促進に関することが多い</p>
機械共同化・ スマート農機導入	<ul style="list-style-type: none"> 協力企業を探す 中古農業機械の活用 農業機械の共同利用 補助金を活用 モデル地区を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 大型農業機械の導入 スマホを活用した水管理 ドローンやラジコン草刈機の活用 ベンチャー企業等の誘致 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">農機導入に関することが多い</p>
土地利用・ 農地条件	<ul style="list-style-type: none"> 農地集積 農道、水路の整備 未整備値のほ場整備 遊休農地の把握とよもぎ、そばの作付け開始 	<ul style="list-style-type: none"> 加工施設の整備 用水路の大規模改修 中山間に特化した法整備 加工施設の整備 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">農地・施設等の整備が多い</p>

各区におけるテーマ別取組数
(区内での関心度)



テーマ別取組構成比率の各区と7区全体との差
(市内における関心度の差)

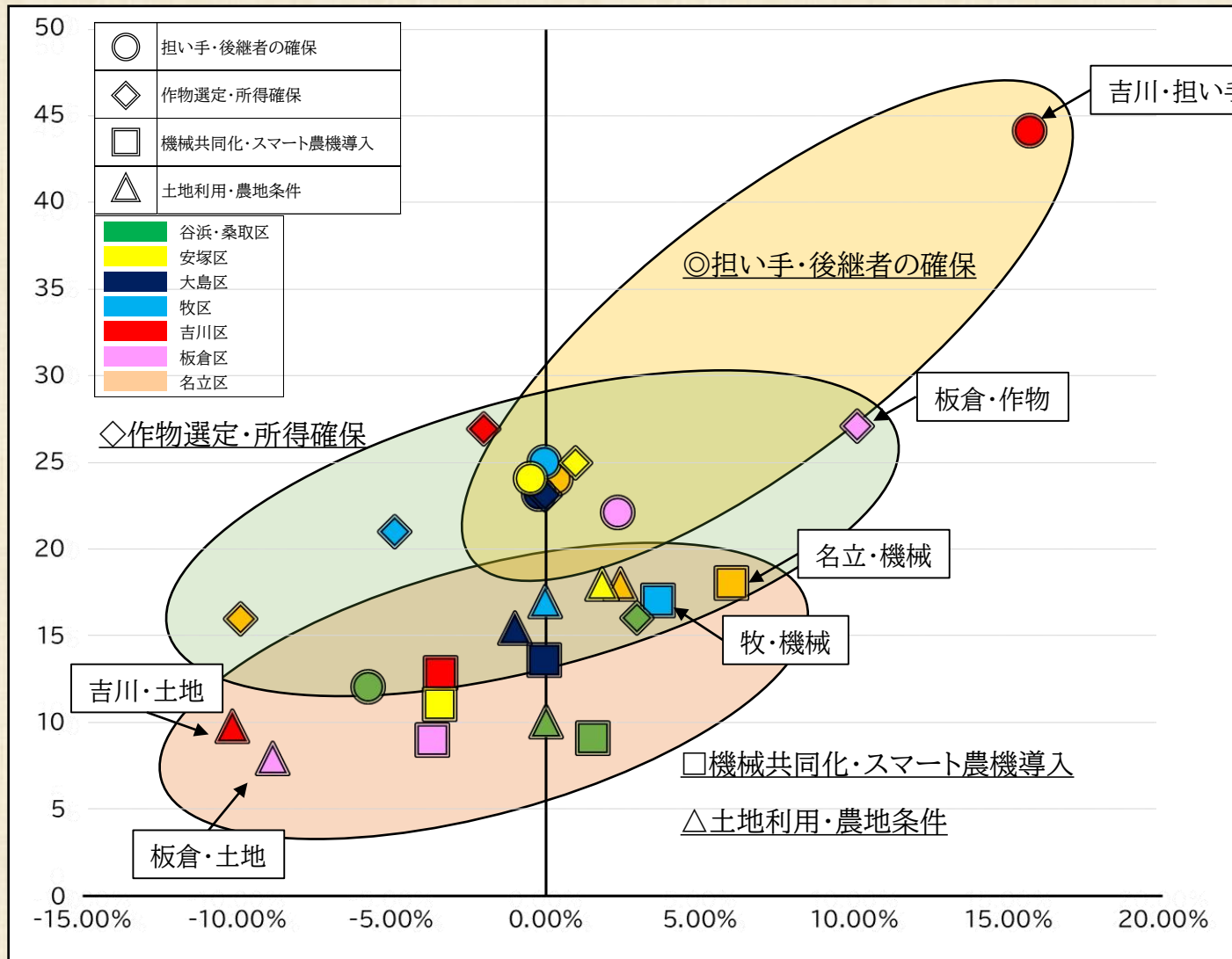


「担い手・後継者」に関する取組が多く見出され、
次いで、「作物選定・所得確保」に関する取組が多い傾向に

吉川区の「担い手・後継者の確保」と
板倉区の「作物選定・所得確保」が突出して高い比率に

第2回目で見出された取組の数と地区別傾向

(区内での関心度)



各区構成比率と7区構成比率との差
(市内における関心度の地域差)

◎担い手・後継者の確保

- ほぼ全ての区で見出された取組数が最も多くなっており、関心が高い取組と考えられる。
- 吉川区で取組数と構成比率差が特に突出している。

◇作物選定・所得確保

- 「担い手」に次いで取組数が多く見出されているが、各地区で構成比率差が大きい。
- 板倉区で取組数と構成比率差が+で突出している。

□機械共同化・スマート農機導入

- 「担い手」や「作物」に比べると取組数が少ないが、牧区や名立区では構成比率差が+で大きくなっており、関心が高いものと考えられる。

△土地利用・農地条件

- 「機械」と同様に「担い手」や「作物」に比べると取組数が少なく、特に吉川区と板倉区では構成比率差が- (マイナス) で大きくなっている。

6月

第3回みらい農業づくり会議

グループワーク

10月

第4回みらい農業づくり会議

第2回目の議論で見出された
テーマ別の「必要な取組」

「今取り組めるもの」
「将来取り組むべきもの」

を、グループワークでの
議論材料として整理

担い手・後継者の確保

作物選定・所得確保

機械共同化・スマート農機導入

土地利用・農地条件

活動のエンジンとなる組織

グループワークでの
議論を集約化し、
地域将来ビジョン

として決定・共有

課題解決のテーマ別に取り組の具体化を議論
(いつ、誰が、どうやって)

各種取組を展開

令和4年度における地域自治区別ワークショップの進め方 ～第3回会議の進め方①

第2回名立区みらい農業づくり会議
令和3年12月21日(火) Aグループ

担い手・後継者の確保・育成	農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善
<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への支援など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 名立区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 SNS やネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。
<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>担い手の確保 移住・定住者の受け入れ SNSでの発信</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>先進機器の導入 共同利用の促進</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>
<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>法人化 移住・定住者の受け入れ</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>名立ブランドの確立 SNSでの発信</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>共同利用の促進 農地・農業施設の整備・修繕</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>

活動のエンジンとなる組織の育成強化

第2回名立区みらい農業づくり会議
令和3年12月21日(火) Dグループ

担い手・後継者の確保・育成	農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善
<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への支援など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 名立区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 SNS やネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。
<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>担い手の確保 移住・定住者の受け入れ SNSでの発信</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>先進機器の導入 共同利用の促進</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>
<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>法人化 移住・定住者の受け入れ</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>名立ブランドの確立 SNSでの発信</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>共同利用の促進 農地・農業施設の整備・修繕</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>

活動のエンジンとなる組織の育成強化

第2回会議で個々のグループで出された意見を

第2回名立区みらい農業づくり会議
令和3年12月21日(火) Cグループ

担い手・後継者の確保・育成	農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善
<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への支援など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 名立区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 SNS やネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。
<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>担い手の確保 移住・定住者の受け入れ SNSでの発信</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>先進機器の導入 共同利用の促進</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>
<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>法人化 移住・定住者の受け入れ</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>名立ブランドの確立 SNSでの発信</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>共同利用の促進 農地・農業施設の整備・修繕</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>

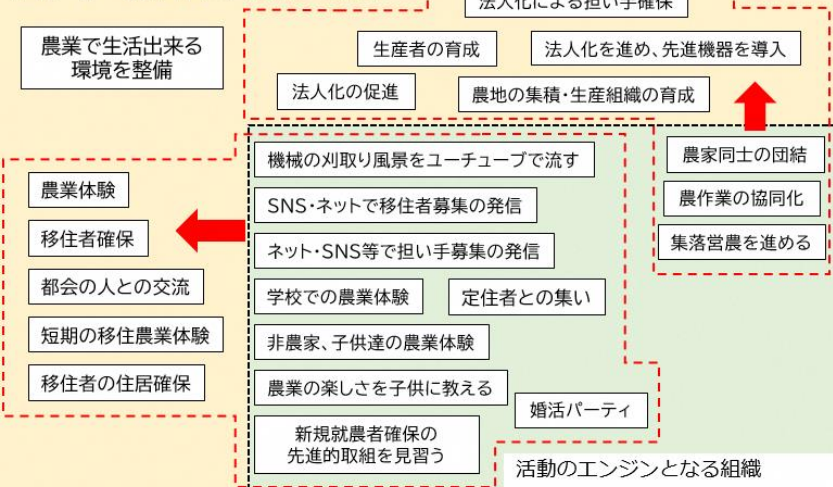
活動のエンジンとなる組織の育成強化

第2回名立区みらい農業づくり会議
令和3年12月21日(火) Bグループ

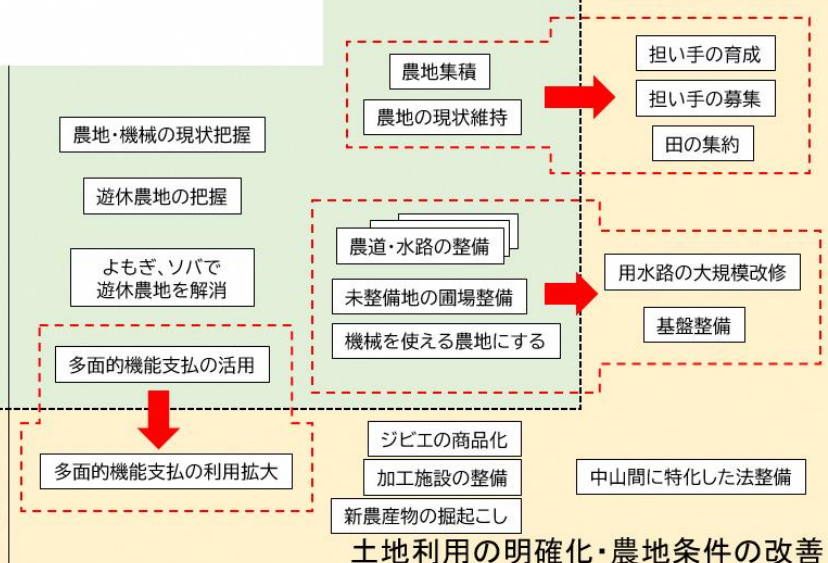
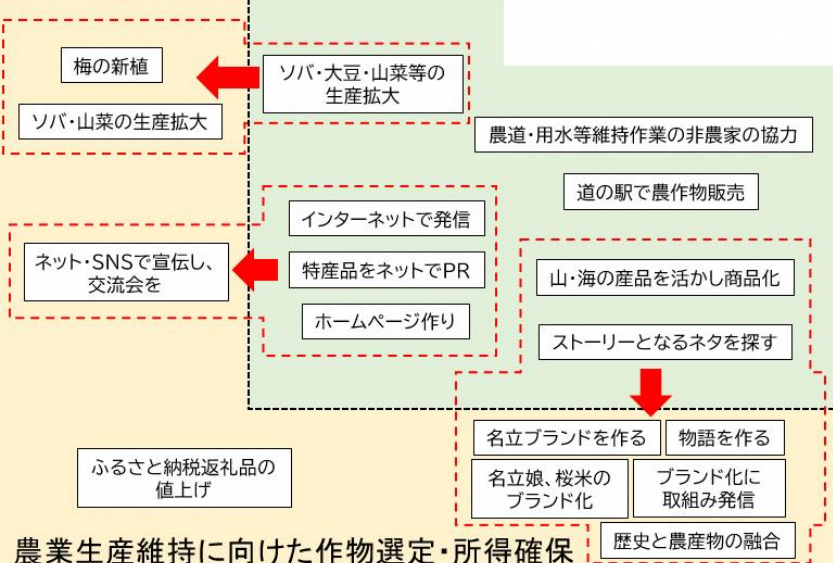
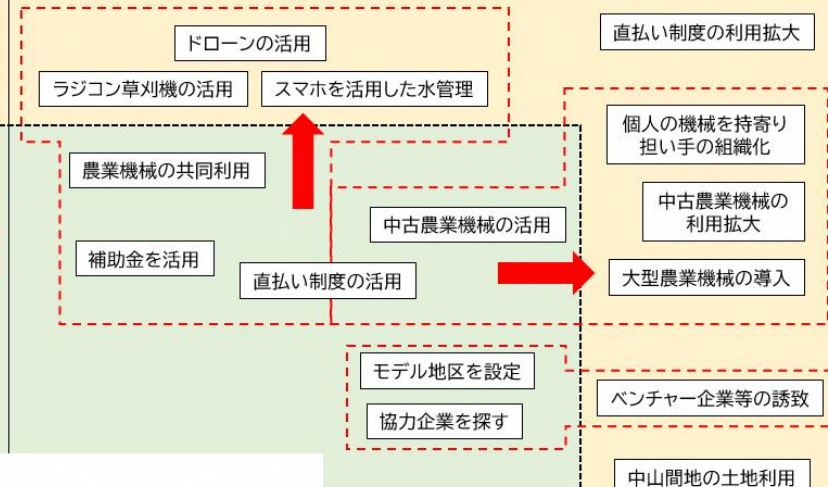
担い手・後継者の確保・育成	農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善
<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への支援など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 名立区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 SNS やネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。
<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>担い手の確保 移住・定住者の受け入れ SNSでの発信</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>先進機器の導入 共同利用の促進</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>
<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>法人化 移住・定住者の受け入れ</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>名立ブランドの確立 SNSでの発信</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>共同利用の促進 農地・農業施設の整備・修繕</p>	<p>【将来取り組むべきもの】</p> <p>農地・農業施設の整備・修繕</p>

活動のエンジンとなる組織の育成強化

担い手・後継者の確保・育成



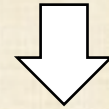
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用



集約化した上で、整理

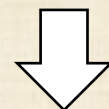
同じ取組でも、

- ・「今」「将来」の双方にある
- ・複数のテーマにまたがっている



その取組が属するべきと思われる「テーマ」「時間軸」をグループごとに話し合って整理

活動のエンジンとなる組織のイメージを整理



グループワークの材料

県事業等による取組の概要

地域 自治区	取組手法 (実施主体)	会議の名称	取組概要	これまでの取組	今後の予定
浦川原区	フューチャー デザイン・ ワークショップ (明治大学)	浦川原区みらい 農業づくり会議	参加者が「現代世代」と「仮想将来世代」になりきり、地域が抱える課題への対応策検討をそれぞれの視点で議論することにより、長期的な視点に立った対応策を見出す。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度にワークショップを2回開催 地域の資源や取り組むべき方策について洗い出すとともに、「未来人」の視点で「残したいもの」「変えてはならないもの」などを議論した。 	令和3年度に議論した内容を、他の地区同様に課題解決に向けた5つのテーマ別に振り分け、必要な取組の設定・共有を行う。
中郷区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	中郷区農業の 未来を考える会	<p>参加者が、人口推計に基づく地域の人口減少危機を具体的に把握した上で、地域の維持に向けた定住目標や活性化の取組を検討し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状分析 人口推計に基づいて予測される将来の人口と農業者の減少を緩和する「人口安定化シナリオ」(定住目標)や、地域の人的資源を洗い出す「地元関係図」を作成 将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。 将来プランの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2・3年度に計9回のワークショップを開催し、「将来プラン」を策定 重点取組項目として、「中郷ブランドづくり」「都市農村交流の促進」「女性の活躍の場創出」「必要な体制づくりや広域連携」を見出した。 	令和3年度に定めた「将来プラン」に基づき、年次計画で各種の取組を実践
清里区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	「きよさと未来予想図」を作る会	<ul style="list-style-type: none"> 将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。 将来プランの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度にワークショップを6回開催 地元関係図の作成過程から、基本的な方針として、地域の維持に必要なサービス(就労場所)を提供する3つの広場(山・農・村)の形成を目指すこととした。 	令和3年度の議論を踏まえ、「将来プラン」への昇華を目指し、参加者による区内踏査(6月)や、モデル事業の実施(10月)を予定

地域協議会と各団体との意見交換会 実施概要（案）
～ろばた館活性化方策・地域自治推進プロジェクト～

1 意見交換会の持ち方、依頼団体等

(1) ろばた館活性化方策（ろばた館利用団体等）意見交換会

対象団体：ろばた館利用団体（令和2年に意見交換をした団体を中心に選定）

区分	内容
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・意見書提出経過及び回答書の内容について ・ろばた館の活用策について意見交換
会場	ろばた館2階会議室
時間	1時間30分程度
回数	全1回
依頼団体	<p>【特産品加工グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深雪加工グループ ・操美会 ・八友会 ・ひまわり会 <p>【文化伝統・交流・地元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折平芸能保存会 ・輝く里不動の会 ・上名立地区振興協議会 <p>【健康福祉関係団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会名立支所 ・名立区住民福祉会 ・名立老人クラブ連合会 ・名立いきいきサロン運営協議会
主催者等 参加者	<p>【主催】名立区地域協議会</p> <p>【共催・事務局】名立区総合事務所</p> <p>【オブザーバー】農村振興課</p>

(2) 地域自治推進プロジェクト（地域づくり実施団体）意見交換会

対象団体：分野ごとの活動団体

区分	内容	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自治推進プロジェクトの概要説明（地域活性化の方向性の作成経緯） ・各団体の令和5年度以降の活動希望の聞き取り、意見交換 	
会場	名立区総合事務所	
時間	1時間30分程度	
回数	全2回（各グループ1回）	
依頼団体	Aグループ	【産業】（商業・林業・漁業・農業） <ul style="list-style-type: none"> ・名立商工会 ・不動生産森林組合 ・上越市漁業協同組合名立支所 ・農業関係（「名立区みらい農業づくり会議」で同様な議論をしていることから、参集は依頼せず同会議の議論から抽出）
	Bグループ	【健康福祉・教育】 <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会名立支所 ・名立区住民福祉会 ・名立老人クラブ連合会 ・名立いきいきサロン運営協議会 ・名立の子どもを守り育む会
主催者等参加者	【主催】 名立区地域協議会 【共催・事務局】 名立区総合事務所	

※必要に応じて個別の団体等にも聞き取りを行う。

2 「地域活性化の方向性」の作成に向けた今後のスケジュール

時期	内容
6月23日	第4回名立区地域協議会 →依頼団体等決定
7月11日 ～20日	各団体との意見交換会
7月下旬	第5回名立区地域協議会 (内容)・名立区において今後実施していかなくてはならない事業 ・上記を踏まえた「地域活性化の方向性」の意見出し
8月	名立区地域協議会（必要に応じて複数回） (内容)・地域活性化の方向性（案）の協議 ・元気事業に提案する事業についての協議
9月	名立区地域協議会（必要に応じて複数回） (内容)・地域活性化の方向性の決定 ・元気事業に提案する事業の決定